

鵜飼い漁をめぐる ポリティカル・エコロジー

中国・長江中流域における漁場面積の減少と漁師たちの対応

Political Ecology of "Cormorant Fishing": Change of "Cormorant Fishing"
under the Decrease of Fishing Area in the Lake Poyang, China

卯田宗平

UDA Shuhei

①問題の所在

②鵜飼い漁について

③江西省鄱陽湖の変化

④鵜飼い漁師たちの対応

⑤漁師たちの対応と鵜飼い漁の変化

おわりに

【論文要旨】

本稿は、長江中流域・江西省鄱陽湖における鵜飼い漁を対象に、生産請負制の実施後に漁場面積が減少した事例を取り上げ、漁師たちがこの状況にいかに対応したのか、そして彼らの対応が鵜飼い漁にどのような変化をもたらしたのかを考察するものである。

調査では、まずRS（リモートセンシング）技術により水域の面積を測定した。その結果、鵜飼い漁師たちが操業可能な水域は過去15年の間に76.4%減少したことが分かった。こうしたなか、漁場面積の減少に直面した漁師たちは、川幅の広い河川で集団漁（フォ）を開始し、大量に獲れるコイやカワヒラなどの漁獲物を燻製業者や養殖業者に販売できる仕組みをつくった。この結果、鵜飼い漁は、①漁獲物を特定の業者に売り切ることができるため比較的安定した収入が得られるようになった。②フォを漁村周辺の河川で行うようになったため、一連の操業において移動に費やされる時間が以前に比べて短くなり、逆に漁獲（実際にウを使って魚を獲る作業）時間が増えた。③活動強度の強い漁獲作業の時間が増加したため、出漁一回あたりの身体活動量が増加した。そして、最後に、漁場環境の変化に対する漁師たちの対処のメカニズムに考察を加えた。

【キーワード】 鵜飼い漁、ポリティカル・エコロジー、生産請負制、生業技術、鄱陽湖